

# 総 括 研 究 報 告

主任研究者 鴨下 重彦\*

## 1. 研究目的

神経系および感覚器の発達に関する諸問題、特に障害の早期発見と、チェック方法、および予防対策などに望ましいシステムを樹立すべく提言を行うことを目的とした。

本研究は平成元年に発足したので、今年度が最終年度に当たる。

## 2. 研究組織

研究組織は前2年度に引き続き、以下のよう  
な4つの分担研究班からなり、各分担研究班にはさらに5～12名の研究協力者が参加した。

- 1) 障害児の発生子防対策と療育対策との連携に関する研究 (分担研究者 鴨下 重彦)
- 2) ハイリスク児の発達チェック方法に関する研究 (分担研究者 前川 喜平)
- 3) 小児の視覚発達の評価法に関する研究 (分担研究者 丸尾 敏夫)
- 4) 聴覚・言語障害、その発見と対策 (分担研究者 田中 美郷)

それぞれに期待される研究内容は以下の如きものであった。

- 1) 障害発生子防対策と障害児療育対策との間を結ぶ(障害が固定する前の)望ましい療育システム構築に向けての提言(いわゆるグレー・ゾ

ン対策も含む)

小児慢性疾患ハンドブックの取りまとめ(神経・筋疾患編)

**\*グレー・ゾーン対策**

2) 乳幼児健診の発達チェックの充実に向けて、さらには、「発達クリニック」的な事業を実施する場合の、技術面の基盤作り(平山班でのシステム面からの研究と補完しあう)

ハイリスク児の発達チェック法のマニュアル作成

**\*周産期医療施設ネットワークでの小児の発達の中・長期的フォローアップ・スタディー**  
(周産期、新生児の分野の研究とのタイアップが重要)

3) 乳幼児の健診における視覚のチェック、検査システムのあり方への提言

**\*視覚のチェック**

4) 乳幼児の健診における聴覚のチェック、検査システムのあり方への提言、乳幼児健診の言語発達面のチェックの充実に向けての提言

**\*聴覚・言語のチェック**

## 3. 研究成果

- 1) 発生子防と療育対策研究班

最終年度に入り、各個研究として研究協力者全員が執筆して小児慢性神経・筋疾患ハンドブ

\*東京大学医学部小児科

クを出版し、全国都道府県、保健所へ配布、保健婦活動や教育に広く活用された。また、予防対策や療育対策、そしてその連携を各自治体(保健所レベル)でどのように行われているかを知る目的で、全国的アンケート調査を行い、17都道府県から詳細な返答を頂いた。そのすべてを掲載することは出来ないが、各自治体ともこの問題とよく取り組んでいる姿勢が浮き彫りにされたと思われる。

(小児慢性神経・筋疾患ハンドブック)

1. 神経学的発達の評価
  - A. 神経学的発達の評価で鑑別すべき状態
  - B. 乳児期の良性あるいは一過性の運動発達異常
  - C. 運動機能の発達の評価
  - D. 精神発達の評価
2. 先天性形成異常
  - A. 先天異常と奇形ということばの意味
  - B. 先天異常の原因と身体器官の形成される時期
  - C. 先天性形成異常・奇形の分類
  - D. 対応(診察, 治療)
  - E. 予防(遺伝相談)
  - F. 外表奇形の具体例
3. けいれん性疾患
  - A. けいれんとは
  - B. けいれんの原因
  - C. けいれんについての聞き取りのポイント
  - D. けいれんの診断における脳波の意義
  - E. 小児けいれんの特徴
  - F. てんかん
  - G. てんかんに対する偏見
4. 脳血管障害
  - A. 脳血管障害とは
  - B. 分類・症状・診断・治療
  - C. 頭蓋内出血
  - D. 脳虚血
5. 神経感染症
  - A. 細菌, 真菌, その他による感染症
  - B. 化膿性髄膜炎
  - C. ウイルス性髄膜炎
  - D. ウイルス性脳炎
  - E. 中枢神経系の遅発性ウイルス感染症 (slow virus infection)
  - F. 亜急性硬化性全脳炎
  - G. 急性脳症
  - H. ライ症候群
6. 脳性麻痺
  - A. 脳性麻痺とは
  - B. 早期診断のポイント
  - C. 療育指針
  - D. 医学的管理について
  - E. 増悪時の対応と処置
  - F. 注意事項
7. 精神薄弱
  - A. 「精神遅滞」について
  - B. 精神薄弱の原因
  - C. 生理的精神薄弱について
  - D. 多因子遺伝について
  - E. 精神薄弱の出現率
  - F. 出現率の性差について
8. 変性疾患
  - A. 変性疾患の種類(分類)
  - B. 灰白質(大脳皮質)が主としておかされる疾患
  - C. 大脳白質が主としておかされる疾患

- D. 大脳基底核がおかされる疾患
- E. 小脳のおかされる疾患
- F. 脊髄・末梢神経のおかされる疾患

9. 運動器疾患

- A. フロッピーインファント
- B. 筋ジストロフィー
- C. 先天性ミオパチー
- D. ウェルドニッヒ・ホフマン病
- E. 重症筋無力症

10. 自閉症, チック, 微細脳損傷症候群

- A. 自閉症
- B. チック
- C. 微細脳損傷症候群

グレー・ゾーン対策に関する研究として、視覚認知の発達から、障害児を早期発見する試みが行われ、また低出生体重児の4ヵ月乳児健診における発達の遅れの実態、3才児以降に診断される障害児の問題点から早期発見を探る研究などが行われ、その他長期入院障害児の実態調査や、先天性形成異常と発達障害との関係、行動異常としてのGilles de la Tourette症候群の早期診断、乳児期にみられる一過性の筋緊張異常と姿勢異常に関する研究などが行われた。

(発達障害の早期対策に関するアンケート)

障害児の早期発見、早期療育システムは、

1. 県全域で

- a. 確立している(年 月 より)
- b. 検討中である(年 月 発足予定)
- c. 未定

2. 市町村レベル(地域)で

- a. 確立している(年 月 より)
- b. 検討中である(年 月 発足予定)

c. 未定

☆1., 2. で a と答えられた場合、以下にもお答え下さい。

3. 上記の発達障害は

- a. 脳・神経
- b. 視覚
- c. 聴覚
- d. その他の障害(具体的に )

4. 中心となる主な体制は

- a. 保健所
- b. 医師会
- c. 公立病院
- d. 大学病院

5. 具体的なやり方を簡単にお書き下さい。

- 1) 一次健診
- 2) 二次健診
- 3) 三次健診

6. 問題点があればお書き下さい。

☆資料をお送り下さっても結構です。

以上のアンケート調査にご協力頂いた施設は次の通りであった。

北海道：市立函館保健所

秋田県：福祉保健部障害福祉課

新潟県：環境保健部公衆衛生課母子保健係

石川県：厚生部

群馬県：衛生環境部保健予防課

埼玉県：衛生部保健予防課母子衛生

戸田市立健康管理センター管理課

東京都：衛生局健康推進部母子保健課保健係

新宿区衛生部保健課

世田谷区立総合福祉センター

板橋区衛生部公衆衛生課保健管理係

足立区東部障害福祉総合センター幼児

指導係

台東区衛生部保健衛生課

神奈川県：横浜市衛生局

静岡県：健康対策課健康増進係

京都府：保健環境部健康対策室  
奈良県：保健環境部健康対策課母子保健係  
兵庫県：保健環境部健康課  
島根県：環境保健部公衆衛生課母子保健指導係  
広島県：広島市衛生局環境保健部健康管理課保  
健指導係  
山口県：下関保健所保健予防課  
福岡県：保健環境部保健対策課  
福岡市衛生局保健予防課保健係  
大牟田市保健所  
熊本県：衛生部保健予防課

## 2) ハイリスク児の発達チェック研究班

ハイリスク児に関する研究は新生児期の異常，**failure to thrive**に関しハイリスク児の発達チェックガイドブックが出版され，その原案は昨年度の報告書に掲載されたが，内容は以下のものであった。

(ハイリスク児の発達チェックガイドブック)

### 第1部 ハイリスク児の概念

1. 新生児期におけるハイリスク児
2. 乳幼児健診からみた乳幼児期のハイリスク児
3. 出生体重，在胎週数，在院日数，性別をもとにしたハイリスク児の検討

## 第2部 ハイリスク児のフォローの要点

1. 未熟児(早産児)
2. 満期ハイリスク児
3. 境界児の早期発見と取り扱い方
4. Failure to thrive

## 第3部 診察法

1. 乳児
2. 幼児期前期
3. 幼児後期
4. 微細神経兆候の診かた
5. 認知障害の診かた

## 第4部 事後措置

### 3) 視覚発達評価研究班

前年度までに報告した絵画法による検討を行い，特にランドルト環法との比較，両者での評価の差などについて検討を加えた。

### 4) 聴覚言語発達障害対策研究班

前年度すでに行われた検査法を出来るだけ広く活用することを試みた。地域により耳鼻科医の協力の得られにくい所もあったが，新しく7つの県において試みられ，その成績が報告された。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 1. 研究目的

神経系および感覚器の発達に関する諸問題,特に障害の早期発見と,チェック方法,および予防対策などに望ましいシステムを樹立すべく提言を行うことを目的とした。

本研究は平成元年に発足したので,今年度が最終年度に当たる。